

読書推進運動



公益社団法人

読書推進運動協議会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル 6階

TEL 03(5244)5270

FAX 03(5244)5271

発行人 佐々木 泰

編集人 片岡 伸子

定価 60円

会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.690

★野間読書推進賞 候補者推薦のお願い(2頁)

★2025年度 定時総会開催のお知らせ(3頁)



雄星投手と歩む 読書感想文コンクール

株式会社岩手日報社
総合メディア局長たかはし まさと
高橋直人

メジャーリーガーが岩手の子どもたちを支援

「本があるから今がある」。米大リーグ・エンゼルスで活躍する菊池雄星投手のことばです。岩手県出身の雄星投手は球界随一の読書家として知られ、毎日の就寝前はもちろん、試合の移動時間でも必ず本を読むほどの本好きです。

そんな雄星投手が全面協力する「菊池雄星文化プロジェクト 岩手読書感想文コンクール」は今年58回目を迎えました。岩手の小中高生を対象に、140校以上の約4000人が参加する伝統あるコンクールで、これほど長く続いているのは全国でもめずらしいようです。雄星投手の協力も6年目に入りました。

4月の課題図書選定会からコンクールは始まります。今年の課題図書は、出版38社から159冊が届けられました。作家や書店、教育関係者らが5部門各6冊の計30冊を選定。6月に募集開始し9月に締め切り、一次、二次、最終審査を経て各賞が決まります。12月の表彰式には雄星投手がオンラインで出席します。

同コンクールは日報岩手書店会と岩手日報社の共催で1968年にスタート。同書店会は「良書を普及し、読書によって教養を高め、よりよい社会の建設につとめる」をモットーに発足しました。その信念を実現する具体的な取り組みとして、長年、岩手の子どもたちの読書力向上と健全育成に尽力してきました。しかし、年々応募作品数が減少。ネット社会の急速な広

がりや日本経済の停滞などもあり、家庭や学校での書籍購入費用の減額が顕著に。町の本屋さんの廃業・撤退が進んだことも拍車をかけ、子どもたちの読書に親しむ機会・習慣が失われてきました。

この停滞ムードを打ち破ったのが、雄星投手です。「本を読む子どもたちや本を読むことが減ってきている。少しでも力になれば」と全面協力を申し出てくれました。以来、応募数も回復し、さらに盛りあがっています。

雄星投手は最終審査に残った約90作品すべてに目を通し、「菊池雄星特別賞」を選びます。受賞者に贈られるのは雄星投手のサイン入りユニフォーム。子どもたちの間では「雄星さんに作文を読んでもらいたい」が合言葉になっています。

「雄星さん」「みなさんこんにちは！ 菊池雄星です」。12月の表彰式のシーンです。シーズンオフのトレーニングの合間をみて、オンラインで登場する雄星投手に、子どもたちの表情はひととき輝きます。本を読むことの大切さ、今読んでいる本、読書がメジャーリーグの大舞台で活躍する自分の力になったことを話す雄星投手を見つめる目は真剣そのものです。

第55回(2025年度)

『野間読書推進賞』

受賞候補者推薦のお願い

公益社団法人 読書推進運動協

議会は、読書の普及に貢献し、讃えられるべき業績をあげながらも、報われることの少なかった個人および団体を顕彰してきまし



野間読書推進賞賞牌

た。この賞は、1969年、当協議

会の社団法人設立を機会に、野間省一 講談社社長(当時)より1000万円の寄付を受け、

1971年に「読書推進賞」を設定、1979年に講談社創業70周年記念として1000万円、

1987年と2023年にそれぞれ、2000万円の寄付を受け、

その基金を中心にして運営しているものです。「読書推進賞」は、

1985年より、「野間読書推進賞」とあらためました。

本年度も次に掲げる要項にしたがって、実施いたします。みなさまからのご推薦をよろしくお願いいたします。

1 賞

賞状および賞牌

金30万円(団体の部)

金20万円(個人の部)

金5万円(奨励賞)

3 受賞の対象

地域や職域などにおいて、読書の普及に永年力を尽くし、読書推進運動に貢献された個人または団体。業務として読書推進に関する事業に従事する者、また学校図書館関係は除外します。

個人の場合、年齢・職業に、団体の場合、会員数・規模などに制限はありません。

過去に推薦いただいた個人や団

体を再度ご推薦くださってもかまいません。

過去に推薦いただいた個人や団

4 推薦方法

① 全国都道府県および政令指定都市教育委員会

② 都道府県中央図書館および読書推進運動協議会

③ 全国市町村教育委員会連合会

④ 日本PTA全国協議会

⑤ 日本新聞協会

⑥ 日本放送協会

⑦ 日本民間放送連盟

などに候補者推薦、および、関連機関への候補者推薦案内を5月中旬に依頼します。

候補者の心当たりがある方は、各団体・機関を通してご推薦ください。個人からのご推薦は受け付けておりません。

これまでの受賞者一覧、昨年度の受賞者業績は、当協議会ホームページ(<http://www.dokusho.or.jp>)でご覧いただけます。ご推薦の参考としてください。

5 推薦用紙

当協議会指定の用紙をお使いください。推薦用紙および要項をご入用のときは、当協議会にご請求ください。(Word、Excel形式のファイルもごさいいます。添付資料は返却にも応じます(希望者のみ)。

9 結果の通知

受賞者決定後、受賞者とその推

6 推薦書類送付先、締切

公益社団法人

読書推進運動協議会

「野間読書推進賞」係

〒101-0005

東京都千代田区神田神保町

1-32 出版クラブビル6階

Tel. 03-5244-5270

推薦締切

2025年7月31日(木)消印有効

7 受賞者決定まで

推薦締切後、8月下旬に野間読書推進賞運営事業委員会による選考準備委員会候補者を選び、9月中旬に3名の選考委員からなる選考委員会で団体の部、個人の部と、必要が認められた場合は奨励賞の受賞者を決定します。

各賞の受賞者は、原則として2団体(2名)以内とします。

8 選考委員(五十名)

秋本 敏 公益社団法人 日本図書館協会 図書紹介事業委員会委員長

黒木義博 公益社団法人 全国学校図書館協議会 読書活動プロジェクト担当

野上 彰 児童文学・文化研究家 一般社団法人 日本国際児童図書評議会 副会長

受賞者決定後、受賞者とその推

推薦ください。

近年、個人の部への推薦が少

ない傾向にあります。地域文庫を

長年運営されている方、グループの中心となつていらっしゃる方、複数のグループにまたがる活躍をされている方など、個人の活躍もぜひ、ご推薦ください。



昨年度受賞者、推薦者のみなさんと野間会長、選考委員

10 贈呈式

2025年11月7日(金)

出版クラブホールにて(予定)

出版界、図書館界の関係者(団体)、これまでの野間読書推進賞受賞者、『読書推進運動』執筆者のみなさんなどをお招きします。

昨年の贈呈式の様子を、当協議会ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

近年、個人の部への推薦が少

ない傾向にあります。地域文庫を

長年運営されている方、グループの中心となつていらっしゃる方、複数のグループにまたがる活躍をされている方など、個人の活躍もぜひ、ご推薦ください。

推薦ください。

近年、個人の部への推薦が少

ない傾向にあります。地域文庫を

■活字文化議員連盟・学校図書館議員連盟 合同総会

書店の活性化に向けた提言をもとに 読書環境の充実を目指す

4月24日(木)、超党派の国会議員で構成される活字文化議員連盟と学校図書館議員連盟が、千代田区の参議院議員会館で合同の総会を開催した。両議連の会長である上川陽子議員、松野博一議員のあいさつなどがあり、講談社と読売新聞社が2月に発表した「書店活性化へ向けた共同提言」が報告された。両社は豊かな人間性を養い、自由で多様性のある健全な民主主義社会を発展させるためには、活字文化や読書体験が欠かせないという認識を共有している。



国会議員だけではなく、出版・新聞・書店・図書館・学校関係者が多数出席

講談社社長（読書推進運動協議会会長）と、山口寿一（読売新聞グループ本社社長がそろうて登壇した。最初に山口社長が総論として、書店は本と人をつなぐ「地域の文化拠点」であるとしたうえで、全国で減少が続いており、この20年ではほぼ半減、地域に書店がひとつもない「無書店自治体」が4分の1に上っていると報告した。また、フランスの「カルチャー・パス」制度、韓国の与信専用金融業法改正による小規模書店などのクレジット手数料軽減の取り組みなどを紹介、日本においても書店を活性化し存続させるための対策は、喫緊の課題であるとした。

野間社長は、日本の紙の書籍の売り上げはピークだった1996年の4割以下に落ち込んでいるなどのデータを示したうえで、共同提言の5項目、①書店向けキャッシュレス決済手数料の引き下げ、②ICTタグで書店のデジタル・トランスフォーメーション（DX）、③書店と図書館の連携、④新規書店が出やすい環境整備、⑤絵本専



書籍の売上データなどをもとに、共同提言を説明する野間社長

門士の活用など読書教育の充実を具体的に説明した。

野間社長はさらに、DXが遅れている出版業界においては、実用化された「RFIDタグ」の導入が必要であると続けた。RFIDタグを出版物に封入すれば、店頭におけるさまざまなデータを書店と出版社でリアルタイムに共有できるようにになり、購買傾向の分析、返品率の減少、万引きの防止などのメリットがあるとし、普及のために国や自治体にコスト面での支援を求めた。共同提言の報告を受けて出席した議員との活発な質疑応答もあり、国会、行政一丸となって書店減少と読書離れの実態を共有するとともに、スピード感をもって対策を講じることを確認した。

■「子どもの読書活動推進フォーラム」

誰もが自由に本を手に取り 読める環境に向けて連携を

文部科学省と国立青少年教育振興機構は、4月23日(木)、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）で「令和7年度「子ども読書の日」記念子どもの読書活動推進フォーラム」を開催した。今年の「子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）」として合計22件が文部科学大臣表彰され、特別講演とポスターセッションが行われた。

特別講演は、野口武悟さん（専修大学教授）の「読書から『誰一人取り残さない』ために『読書バリアフリーの理論と実践』」。



盛況のポスターセッションは情報交換の場になった

野口さんは、「学び、情報活用」の基礎である読書から、誰ひとり取り残してはいけない。バリアフリー環境の充実、読書にとって重要なこと」と述べ、視覚障害者等が読める方式の図書を入手できる割合は、先進国でも7%と低く、「買う自由」と「借りる権利」が確立されていない現状を紹介。また、日本では特別支援学校の生徒数がこの10年で2倍になるなど、

学校・図書館・地域で読書バリアフリーの必要性が高まっていると指摘し、音訳・点訳に加え、マルチメディアDAISYやデジタル絵本、布の絵本など多彩なバリアフリーの媒体の普及と、リーディングトラッカーやコミュニケーションボードなどの道具の活用で「無理なく、できることを一つずつ、取り組みたい」と結んだ。

ポスターセッションでは、16の被表彰者代表が各自の実践をポスターや資料の展示で紹介。各ポスターブースでは参加者たちが積極的に質問するなど、被表彰者同士の交流も盛んに行われた。

2025年度 公益社団法人読書推進運動協議会 定時総会 開催のお知らせ

公益社団法人 読書推進運動協

議会で、左記のとおり2025年度の定時総会を開催いたします。

一、議題

・第1号議案

2024年度事業報告書と

決算報告書承認の件

・第2号議案

役員改選承認の件

・第3号議案

2025年度事業計画書と

収支予算書報告の件

・連絡事項

一、日時 2025年6月25日(水)

午後3時～4時30分

一、場所 出版クラブビル会議室

(東京都千代田区

神田神保町1-32)

03-5577-1511

■JBBYほか国際フェア出展

日本の児童書・絵本の 今と魅力を世界に発信！

一般社団法人 日本国際児童図書評議会 (JB BY) は、3月31日～4月3日に開催された第62回ポロニー児童図書フェア (イタリア) にて、独立行政法人 国際交流基金 (J F) との共同ブースを出展した。

ポロニー児童図書フェアは、世界有数の児童図書の見本市。JB BY・J Fブースでは、JB BYのおすすめ本、日本の赤かち

ん絵本、日本の国際アンデルセン賞候補・富安陽子さんとあべ弘士さんの本、日本のイラストレーターのポートフォリオなどが展示され、海外の出版社や翻訳者、イラストレーターなどに日本の絵本と児童書の「今」を伝えた。日本

の子どもの本を紹介するタブロイドもブースで配布され、好評だった。

また、フェア期間中には共同



世界中の子どもの本関係者が
共同ブースを訪れた



出版クラブビル

*5月下旬に、議案書と出欠はがきをお送りします。はがきのご返信と当日のご参加、または委任状のご提出を、よろしくお願い申し上げます。

■ザ・キャビンカンパニー「童堂賛歌」

堂々と地元での展示を終了！ 6月からは滋賀県で開催

「こどもの読書週間」のポスターイラストを2023年より手がける絵本作家ユニット、ザ・キャビンカンパニーの大展覧会「童堂賛歌」4月13日(日)に、大分県立美術館(大分市)での展示を終了した。

大分県はザ・キャビンカンパニーの地元ということもあり、会期前から終了まで、図書館、書店、地元マスコミの関心も高く、来場者も3万人を超える大盛況となった。会期中には、サイン会や読み聞かせ、ワークショップなどに加え、アトリエ訪問バスツアーも開催された。



大分県・由布市の廃校舎を利用したアトリエに帰ってきた、「童堂賛歌」作品群

「童堂賛歌」は、2024年7月の平塚市美術館(神奈川県)、皮切りに、足利市立美術館(栃木県)、千葉市美術館(千葉県)を巡回し、今年2月から大分県立美術館で開催。絵本原画だけでなく、オブジェや彫刻、大画面の壁画など、ザ・キャビンカンパニーの作品世界をさまざまな角度から存分に楽しめる展覧会となった。2023年と2024年の「こどもの読書週間」ポスター原画も、ポスターと並んで展示された。

展示作品は現在、ザ・キャビンカンパニーのアトリエに里帰り中だが、6月21日(土)より、関西圏では初となる滋賀県立美術館(大津市)での巡回展示が決定している。なお、同展覧会効果もあいまって、今年の「こどもの読書週間」ポスターの送付希望者が例年以上に続出。一部の図書館からは「利用者が掲示後にほしいと言っているが、譲渡してよいか」との問い合わせもいただいた。また、SNSに掲載風景を投稿いただいた図書館、書店も多かった。

■公益財団法人 伊藤忠記念財団 読書バリアフリー研究会

読書バリアフリーの実現に向け 全国4会場で開催へ

伊藤忠記念財団は、「読書バリアフリー研究会 特別研修『読書のバリアフリーをすすめるために』」を、6月22日(日)に、国立国会図書館 国際子ども図書館(東京都)で開催する。

プログラム

①学校における読書バリアフリーの現状と課題 講師Ⅱ成松一郎(専修大学 講師) ②読み書きが苦手な子どもたちへの読書サポート 講師Ⅱ磯口多恵子(富田林市立大伴小学校) ③図書館からひろげて、つながる学習・読書支援の輪 講師Ⅱ村上佳代・入川加代子(鳥取大学附属特別支援学校) ④肢体不自由の子どもたちへの読書サポート 講師Ⅱ田中美成(東京都立府中けやきの森学園) ⑤鳥取県立図書館における読書バリアフリーの取組について 講師Ⅱ小林みちる(鳥取県立図書館) ⑥国際子ども図書館の児童向けバリアフリーサービス ⑦伊藤忠記念財団の電子図書普及事業について ⑧パネルディスカッション「子どもたちの読書を支える学校

現場の現状と課題、公共図書館に求められるサービスとは」

この研究会は、さまざまな障がいのある子どもたちに読む楽しさを届けるため、図書館などの障害者サービスの充実や具体的な読書サポートの方法、環境づくりを学ぶ機会として開催。対象者は、学校教職員・図書館職員・ボランティアなど。参加費は無料だが、事前の申し込み(6月13日締め切り、先着順)が必要。なお、本研修の一部は後日、オンデマンドにて配信される(申し込みが必要)。申し込み方法など詳細は財団ホームページまで。

また、同財団では「読書バリアフリー研究会」を8月に新潟県新潟市、11月に福島県福島市で、「読書バリアフリーフォーラム 九州・沖縄」を9月に福岡県福岡市で開催予定。詳細は随時、財団ホームページに掲載される。

●伊藤忠記念財団ホームページ (読書バリアフリー研究会)

<https://www.iti-zaidan.or.jp/summary/ebook/barriere/>

優良読書グループの歩み (5)

2024年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

鹿角民話の会 どつとはらえ

代表者 北村 正人

秋田県鹿角市

〈推薦〉

秋田県読書推進運動協議会

「鹿角民話の会どつとはらえ」は1993年、元国語教師ら有志の呼びかけにより設立されました。語り部の高齢化により「むがしっこ」の伝承が危機的状況にあるとの切迫感が設立の背景にありました。

現在(2024年10月現在)の会員は15人(男性9人、女性6人)。年齢は50代〜80代。職業もさまざまです。鹿角に300〜350も伝わっているといわれる民話の掘り起こしや研究、語りの技術の研修などを行っています。

また年間3〜4回、鹿角都市内の各地で「むがしっこ集い」を開催しているほか、市内温泉郷のホテルを会場に宿泊客向けの「鹿

角昔語りの夕べ」を毎週5日開催。毎年3月には市立図書館との

共催で「子ども語りべの集い」を開催。自治会、福祉施設など求めに応じた「出題語り」の実施。小・中学校での語りと語りの指導なども行っています。

活動の基本として「自らが楽し

む」を掲げています。設立当初は各地の語り部を探し出し、ラジカセを片手に毎週のように取材に出かけました。それでも取材に行こうとしていたお年寄りが取材前に亡くなるなど、自分たちの非力さと厳しい現実と直面したこともありました。また、「むがしっこ列車」を走らせたり、冬場はかまくらの中や旧酒蔵で語ったり、さまざまな工夫をこらして、語りの機会を増やしました。

「どつとはらえ」設立当時、市民の民話への関心や認知度は極めて低く、鹿角が全国でも民話の数が多いことはもとより、鹿角の代表的な伝説(だんぶり長者物語、八郎太郎物語、錦木塚物語など)さ

え知らない人が多くいました。学校教育でも民話を取りあげられることはほとんどありませんでした。しかし、この30年間で民話への関心は非常に高まり、学校や施設、地域からの語りの依頼が急増しています。

「どつとはらえ」は30周年を迎えて、「鹿角のむがしっこを語り継ぐ」という基本姿勢を忘れず、先人が残した文化遺産ともいえるべき「むがしっこ」を次世代につなげていく活動にいつそう力を入れています。

特に子どもたちへの継承は喫緊の課題で、これまで以上に学校や図書館との繋がりを密にし「子ども語りべのつどい」を継続してい



鹿角の民話、語りべ文化を
次代へ継承していく

くほか、民話を題材にした「読書感想画コンクール」(市立図書館主催)への協力、各種語りの集いへの子ども出演の強化を図っていきたいです。

新潟かみしばいクラブ

代表者 石倉 恵子

〈推薦〉
新潟県読書推進運動協議会

私たちは20年前の公民館主催「紙芝居ボランティア講座」受講生を中心に始めた会です。代表者、会計、記録などを事務局として、15人程度の会員が活動しています。いろいろな年代に向けたおはなし会で紙芝居を実演することと、毎月の会議で会のあれこれを話しあうことを続けてきました。いろいろな会員さんがおられますが、萎縮や依存がないよう、またその人の個性が現れるように、あまり指導しないのが特徴です。演目や順番はお客さまのリクエストを元に決めるので、不慣れでも早く現場に出ることができず。そこで自分が思ったことを会議で話してもらい、それを参考にしながら各自が成長していきます。成長

長の実感や聞き手の反応が喜びに繋がっていく様子です。

会員ごとに思いも濃淡があり、事情もいろいろです。けれど、それらを認めあつて語ることで、実演にも厚みが増してくるように思っています。また、ネット社会の利点であるLINEで連絡や検索機能をよく使うことで、問題も早く解決できています。アナログとしては、ちよつとした手遊びや、手づくり紙芝居の持つ不思議な感覚も息抜きになっています。

最初は「私たちはそんなに偉くない」と出発しました。そんな私たちが実演訪問のなかで感じることは、昔の街頭紙芝居のことです。自転車紙芝居のことを楽しげに話すお年寄りの姿、話の山場で興奮のあまり声を出す子どもの姿。状況をとらえて、子どもに紙芝居を読んでもらったり、一緒に歌ったり、クイズをします。そんなとき、すべての語りは娯楽だったという思いが強くなるのです。研究団体によつては「優れた作品を優れた演技手が」などと言うところもありますが、それだけでは平和や多様性から離れていくように思います。

名作や昔話を脚本化することや線画主体の表現、紙芝居だけが

戦争に加担したとの誤解を受け、「偽物を子どもにも与えないで」などと言われた過去がありました。けれどそれは今、子どもの身の丈にあつた「子ども文化」として理解が進んでいることが心強いのです。なにより、絵と語りを自分なりに研究するのは楽しいことで、そんな姿を子どもに見せられたらうれしいです。

今回、賞をいただきましたが、「私たち、そんなに偉くないので」つけ加えて「人のためにできることはやってみる」という気持ちです。

読書の「ど」の字もなくお粗末さまでした。カチカチ(拍子木の音)



紙芝居への思い、子どもたちの反応を実演にこめて

高原小学校親子読書会

代表者 川真田 心

徳島県名西群石井町

〈推薦〉
読書推進運動協議会

高原小学校親子読書会の成立の歴史は1947年までさかのぼる。

まずは、高原小学校の学校図書館が生まれた経緯からお伝えしなければなりません。学級のPTAの発案で全家庭が毎月、文庫費を出資し学級文庫が生まれ、1950年には、県内に先駆けて学校図書館が誕生した。その「子どもに読書の喜びを」という精神の基、学校研究とあいまつて、1964年より家庭における「親子読書」が始まった。

1978年9月より、学校図書館を会場として親子読書会が毎月1回開催され、徐々に変化を続け、現在の高原小学校親子読書会にいたつている。開催数は数えるだけで400回を超え、毎月のように「子どもに読書の喜び」を届けている。現在の組織は、第3学年の保護者全員からなり、任期は1年。年度末に次の3学年の保護者へ引き

3年生の親子がペアで読み聞かせを行う



継ぐ、単年度刷新型の組織である。そこで、高原小学校の管理職の先生や第3学年担任の先生のお力を借りながら組織を構成し、保護者同士連携しつつ運営を進めてきた。活動場所は主に高原小学校の多目的ホールや体育館で行う。場の設定は学校にお願いし、実際の計画、運営、会計は親子読書会の保護者が担う。

親子読書会では、年10回程度、毎回3から4家庭の親子がペアで1年生から3年生の児童に読み聞かせを行う。また、年3回程度イベント月を設け、高原幼稚園の園児を招き、歌やゲーム、観劇など工夫をこらす。

今年度も、4月に第3学年保護

者全員に親子読書会の説明と組織作り、担当月の役割分担を行った。5月から7月には親子による読み聞かせ。7月には読み聞かせを行った後、じゃんけんゲームで楽しんだ。

単年度で組織が変わるため、毎年変化があり児童が楽しみにしている。また、緊張しながらも親子で読み聞かせを披露するさまはとてもほほえましく、聞き手をよりいっそう物語の世界に引き込んでいく。

読書会をおよそ50年継続してきたのは、高原小学校の保護者諸先輩と高原小学校の教職員の方で、これまでの努力には頭が下がる思いである。

情熱ながら、私心がけている継続のための方策としては、単年度で組織が入れ替わるため、親子読書会の詳細がわからない人のために連絡調整をこまめに行うことだ。そして読書会の実際の様子のイメージを共有するための情報提供である。

高原小学校親子読書会は、今後とも、成立当初の志をよりよい形で引き継ぎ、次世代を担う児童の育成に寄与していきたい。

地域文庫

代表者 高柳 洋子
福岡県那珂川市

〈推薦〉
福岡県読書推進運動協議会

1985年に発足した読書ボランティアグループ「地域文庫」。

「地域文庫」は来年で40周年を迎えます。子どもたちの喜ぶ顔が見たい、本が好きな子どもたちを増やしたい、という理念のもと、メンバーが読み聞かせに関する知識や読み聞かせ技術の向上のため積極的に研修会に参加し、メンバー同士で反省会を開くなど切磋琢磨しながら今日まで活動してきました。

活動場所は、那珂川市図書館をはじめとして、恵子児童館や依頼のあった公民館のほか、出前おはなし会として、市内の小学校や幼稚園、保育園、高齢者施設などに依頼を受けて出向いていました。当時は、目の回る忙しさだったそうです。

私が加入したのは17年前でした。那珂川市図書館のおはなし会には、かならず来てくれる常連の親子が何人かおり、活動をするう

えでの励みになっていました。季節を感じさせる本や手遊び、パネルシアター、エプロンシアター、紙芝居など、毎回趣向をこらしたプログラムを組み、おはなしのあとは、親子で簡単な折り紙制作をします。

折り紙制作体験は、絵本の世界にひたつた後に、親子でふれあう体験にもなります。毎回とはいきませんがプログラムにそって、登場したおぼけやうさぎなどを話からめて作るなど、工夫しています。

今現在開催している、ふれあひこども館でのおはなし会では、おはなし会終了後に季節を感じる折り紙作品のプレゼントをしています。

また、10年前くらいは、公民館

でのおはなし会の時間をたくさんいただいていた。おはなし会終了後に親子で、紙皿に色を塗って、皿回しをしたり、牛乳パックでパタパタカラスを作ったりとお楽しみ工作講座を毎月実施し、親子でふれあえる時間にしていました。子育て世代の母親には、子育ての合間の息抜きとしても効果があつたかもしれません。参加者は20名前後で、読み聞かせのある日は大人気でした。

絵本とおはなしで親子のふれあいの場を提供



小学校での出前講座では、国語科で宮沢賢治の学習時に依頼されて「注文の多い料理店」のペーパーサートで朗読劇をしたり、平和学習で戦争の恐ろしさがわかる絵本の読み聞かせをしたり、と精力的に活動していました。

現在『地域文庫』のメンバーは3名。発足当時のメンバーは70代80代と高齢になり、グループを脱退しています。しかし、私たち地域文庫の理念は発足当時と変わらず、子どもたちに本のすばらしさ、おもしろさを知ってもらうことを本を手取る子どもが増えることを願って、今後も読み聞かせ活動をしていきます。

「上野の森親子ブックフェスタ」開催!

5月4日(祝)・5日(祝)、東京都台東区の上野恩賜公園で「上野の森親子ブックフェスタ2025」(主催)子ども読書推進会議/日本児童図書出版協会/一般財団法人出版文化産業振興財団)が開催された。

好天に恵まれ、催事のメインである、謝恩価格での児童書販売子どもブックフェスティバルでは各出展者が多くの本を出品し、子どもも大人も熱心に本を選んでいった。また、会場には「被爆ピアノ」が展示され、ピアニストのジェイコブ・コーラーさんのライブも実施。通りかかった人々も足を止めて聞き入った。

サイン会や関連イベントも大盛況。詳細については、次号でお伝えする。



広島原爆で被爆した「被爆ピアノ」を弾くコーラーさん

■紙芝居文化の会 講座

さいたま市・札幌市で
紙芝居講座を開催

紙芝居文化の会は毎年、各地の実行委員会と共催で、紙芝居講座を開催している。今年は埼玉県さいたま市と北海道札幌市で開催される。参加には事前の申し込みと受講料が必要。

●紙芝居講座inさいたま「子どもたちに楽しい「紙芝居のせかい」を広げよう」

開催日・会場

6月21日(土) さいたま市ヘリテイ

開催日・会場

9月6日(土)・27日(土)・11月8日(土)

講師
ジ浦和別所沼会館

・酒井京子(紙芝居文化の会代表アドバイザー)

・中平順子(紙芝居文化の会運営委員 子ども文化研究家)

*紙芝居販売とサイン会も予定。参加定員80名(先着順)。

●紙芝居連続講座in札幌

■家の光協会 読書ボランティア講座

養成・スキルアップの2講座を用意

一般社団法人家の光協会は、「第22回家の光読書ボランティア養成講座」「第19回 同スキルアップ講座」をオンライン配信する。プログラムは以下のとおり。

【養成講座】初心者対象

(参加費無料)

・講演「はじめてみよう 読書ボランティア」読み聞かせにチャレンジ!」講師「安富ゆかり(JPIC読書アドバイザー)」

・講演「みんなで楽しむおはな

し会フルコース」おすすめ絵本&遊びいろいろ」講師「近藤千春(児童文化実践講師)

・実践報告 報告団体「ピッピの会(山梨県)

配信期間 7月14日(月)〜8月15日(金)

【スキルアップ講座】経験者対象

(参加費1000円)

・講演「絵本で伝えたいメッセージ」講師「真珠まり

の創作秘話」講師「真珠まり

庭ビル2Fギャラリー(札幌市)講師

・松井エイコ(紙芝居文化の会 国内統括委員・壁画家・紙芝居作家)

・日下部茂子(紙芝居文化の会 広報統括委員 編集者・大学講師)

・野坂悦子(紙芝居文化の会 海外統括委員・翻訳家・作家)

*東京での6回連続講座を3回に凝縮した講座。参加定員20名(先着順)

プログラムなど詳細は紙芝居文化の会ホームページを参照。

●紙芝居文化の会ホームページ
<https://www.kamishibai-ikajia.com/>

こ(絵本作家)

・講演「子どもたちに本を届けよう」草の根の活動の重要性」講師「汐崎順子(慶應義塾大学非常勤講師)

・座談会「読書の輪を地域に広げるために」読書ボランティアのお悩み相談」コーディネーター「宮崎さな多(NPO法人山梨子ども図書館理事長)

配信期間 8月1日(金)〜29日(金)

期間中は何度でも視聴可能。申し込み方法など詳細は下記

の二次コードまで。



事務局報告(4月)

☆3日「機関紙「読書推進運動」689号別冊 入稿」

☆4日「機関紙「読書推進運動」689号別冊 入稿」

☆7日「機関紙「読書推進運動」689号別冊 入稿」

☆8日「機関紙「読書推進運動」689号別冊 入稿」

☆15日「機関紙「読書推進運動」689号別冊 入稿」

☆15日「機関紙「読書推進運動」689号別冊 入稿」

☆16日「機関紙「読書推進運動」689号別冊 入稿」

☆22日「2025年度 第1回 常務理事会」

☆23日「2025年度 第1回 常務理事会」

☆23日「2025年度 第1回 常務理事会」

☆23日「2025年度 第1回 常務理事会」

☆23日「2025年度 第1回 常務理事会」

☆23日「2025年度 第1回 常務理事会」

☆23日「2025年度 第1回 常務理事会」



読書推進運動
協議会 X
(旧 Twitter)

●編集部&事務局の
ひとこと

●ゴールデンウィークも半分が過ぎたころ、友人の訃報が届きました。小学校時代からの友人です。ときに疎遠になりながらも、長い間のつきあいでした。

●棺に納められた彼女の枕元に、アガサ・クリスティーの文庫本が2冊。初めて買った本で「どうしても手放せない」と話していたからと、お父さんが選んだそうです。それをきっかけに、彼女が好きだった本の話をどをしていたら、翌日、最後のお別れのとて、形見わけとして文庫本とブックカバーをいただきました。

●近藤史恵さんの「サクリファイス」シリーズが4冊。タイトルが目に入った瞬間、笑いと、そして、涙がこみ上げてきました。4冊とも私も持っているよ。たまたま読んだ3冊目の短編集がおもしろくて、あなたにメッセージを送った、という最初から読め!」と返ってきたよね。言われたとおりにシリーズ通読したと報告したら、とあるキャラクターについて熱く語ってきたよ。

●余命宣告をされた彼女は、身の回りの品を整理するなか、本も処分せざるを得なかったのですが、これだけは処分できないと残していたタイトルを聞くと、ほとんどが私の本棚と一致していました。そして、すべて、お酒を飲みながら、メールやLINEのメッセージを交わしながら、延々と語りあっていた本たちでした。ずっと一緒に読んできたんだ。

●私的な話で恐縮ですが、本場に書きたい内容はこれから。あとひと月、ゆつくりと考えをまとめます。(伸)